流域概要

■流域概要

黒部川は、北アルプスの中央部に位置する鷲羽岳(2,924m)を源流として、日本海に向かって流れ下る流路延長85km、流域面積682㎢、河床勾配が1/5～1/120の我が国屈指の急流河川です。

流域は、3,000m級の山々が連なる立山連峰と後立山連峰に囲まれ、激しい侵食を受けた深い谷は「黒部峡谷」として知られており、上流域の大部分は中部山岳国立公園に指定されています。

この黒部川上流域の急峻な山岳地域は新生代に起こった著しい隆起の後に、激しい侵食を受けて形成されたために崩壊しやすく、山地の崩壊面積比率はおよそ5%を占めるほどであり、黒部川は日本有数の荒廃河川でもあります。また、黒部川は、ひとたび豪雨に見舞われると「あばれ川」と化し、多くの人々を苦しめてきました。改修工事が進むまでは洪水のたびに氾濫し、川筋が幾筋にも分かれて流れていたことから、古くは「四十八ヶ瀬」や「いろは川」などとも呼ばれ、恐れられていました。

一方で、黒部川扇状地には田園風景が広がり、黒部川が運んでくる良質な水は人々の暮らしを潤してきました。また、海岸部付近には全国名水百選に選ばれた湧水群があり、現在も地域住民の重要な生活用水として利用されているほか、地域の風土、文化の育成に大きく寄与しています。

扇状地の縁辺部は下新川海岸と呼ばれ、海底勾配が非常に急峻で、数多くの海底谷が存在しています。当海岸は、北東から来襲する波浪により古くから海浜が侵食され、明治以降150～200mも陸地が後退しているともいわれています。

■気候の概要

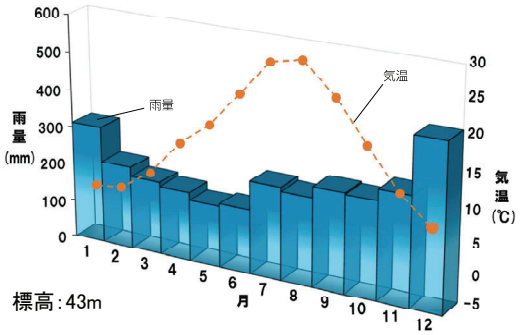
流域の気候は日本海型気候に属し、夏冬を通じ降水量が多いことがあげられます。流域の年平均降水量は日本最大級であり、扇状地の朝日町(気象庁)で約3,000㎜、山地の仙人谷(国)では約4,000㎜を記録します。このため豪雪地帯になりますが、春先のフェーン現象で融雪が起こりやすくなります。

一方、富山県の年平均気温は約15℃で、海岸から内陸に行くにつれて気温が低くなり、高山山岳地帯では夏でも20℃を越えることはほとんどありません。このため黒部川の水温は真夏でも冷たく、15℃程度となっています。

海岸域では北方からの波浪が目立ち、生地以東では北東方向、生地以西では西南西の風が多いという特性をもっています。

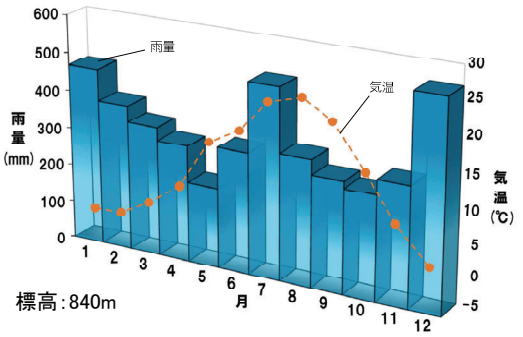
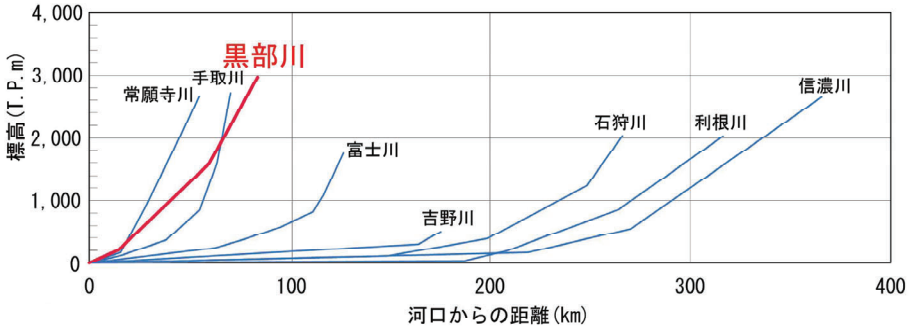
■朝日町(気象庁)の雨量と気温(月平均)

(2014年～2025年)



■仙人谷(国)の雨量と気温(月平均)

(2014年～2025年)



■河床勾配比較図